

◎ ヤマアラシとモグラの家族

厳しい冬をしのぐため、一匹のヤマアラシがモグラの家族に冬の間だけ一緒に洞穴の中にいさせてほしいとお願いしました。

モグラたちはヤマアラシのお願いを聞き入れてくれました。しかし、その洞穴はとても狭かったので、ヤマアラシが洞穴の中を動き回るたびに、モグラたちはヤマアラシの針に引っつかかれてしまうことになったのです。

ついにモグラたちはヤマアラシに洞穴から出ていってくれるようにとお願いしました。しかし、ヤマアラシはこのお願いを断りました。そして言いました。「ここにいるのが嫌だったら、君たちが出ていけばいいじゃないか」

この話を聞いた男の子たちは、「その洞穴はモグラのおうちなんだから、ヤマアラシが出ていくべきなんだ」と「正義の倫理」という観点からこのジレンマを解決する傾向がありました。

それとは対照的に、女の子たちは、みんなが幸せで快適になれるような解決法を探す傾向にあったのです。たとえば、「ヤマアラシの身体を毛布で覆ってあげたらいいのよ」という具合です。

ギリガンは、男性の心理学者たちは多くの場合、正義や自立という観点から道徳性を定義してきたことを批判しました。